

平成 26 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 10
主査名	石田信博・同志社大商学部 教授 松澤俊雄・大阪市立大学 名誉教授
研究テーマ	地域・都市の総合交通政策 -道路交通政策と公共交通システムの改善-
研究の目的: 経済社会におけるインフラの根幹をなす道路の混雑緩和、環境・交通事故対策、エネルギー使用の低減化の面から、人流・物流両面での自動車利用の適正化を目指し、社会にある交通施設の整備・運営を個別交通と公共交通で一体的に行うという総合交通政策の考え方のなかで今日の交通政策について考察する。	
研究の経過(4月～9月): 当プロジェクトにおいてこれまで形成したデータベースを活用しつつ、社会経済的構造の変化の中でとくに自動車利用の実態と性質の把握(再把握)をおこなうとともに、公共交通の整備の状況あり方についても研究を進めている。低炭素交通研究グループとの共同研究会開催も行っている。全体研究会ではこうした研究目標に関連して「スマートシティと公共交通システム」「公共交通と歩いて出かけられるまち」「都市交通における PFI の活用」「官民の役割と PFI・PPP」「世界都市上海の都市交通整備」「都市公営交通の敬老乗車証」また物流で荷揚港に関して「カボタージュの地域へのインパクト」等のテーマで行ってきた。また、文献研究会では、「英国域内バスにおける競争政策と公共的役割の調整」「高速道路建設・運営権と利用料金」「LCC モデルの成長の限界について」等の論文での紹介があった。また数人のメンバーでの部会では、路面公共交通の勉強会を行なっている。今期は PT,国勢調査報告も利用可能となり、通勤・通学交通と都市圏構造・道路交通との関連性について、上記のテーマでのデータベース形成を進めている。	
下期へ向けて(課題等): 鉄道利用と自動車利用を都市交通全体の中で捉え、競合と分担の中で、相互依存的関係を保ちつつ均衡を保っている状態を質的・計量的に示し、効果的インフラ整備についての方向性についての研究を進めるとともに、並行的には都市物流の効率化、都市交通と都心の活性化についての研究もを進めたい。	
研究メンバー(敬称略): 石田信博(主査・同志社大学)、松澤俊雄(主査・大阪市立大学名誉教授)、秋山孝正(関西大学) 斎藤峻彦(近畿大学名誉教授)、太田和博(専修大学)、竹内健蔵(東京女子大学)、徳岡一幸(同志社大学)、山田浩之(京都大学名誉教授)、青木真美(同志社大学)、岡野英伸(近畿大学)、小川雅司(羽衣国際大学)、大井尚司(大分大学)、加藤一誠(日本大学)、毛海千佳子(近畿大学)、後藤孝夫(近畿大学)、兒山真也(兵庫県立大学)、坂西明子(奈良県立大学)、正司健一(神戸大学)、須田昌弥(青山学院大学)、高橋愛典(近畿大学)、鶴指眞志(神戸大学・院)、手塚広一郎(日本大学)、中村 徹(大阪産業大学)、新納克廣(奈良県立大学)、松本秀暢(神戸大学)、水谷 淳(神戸大学)、水谷文俊(神戸大学大学)、山根智仁(大阪商業大学)	